

脳の誤作動講座~神経系のエラーを見分ける方法

私自身は、D.Cですので、
カイロ的な筋・骨格系手技も行います。

ですが、人の体というのは、
構造的な問題だけではなく
メンタル・ケミカルといった部分の
問題が症状を作り上げている事もあります。

そうした問題に対処する際のツールとして、
キネシオロジーの学問を用います。

要は、簡潔にいうと、筋反射ですね。

歴史を辿ると1900年代に遡るのですが、
ここは割愛させていただきます。

筋反射の利点として、
神経系の微細な異常を検査し、
脳のエラーをおおよそ見分けられます。

神経系が、
人体の機能・構造を支配してますよね。

ですから、神経系のエラーを見分けることは
フィジカル・メンタル・ケミカルの問題を
見分けるということにも繋がるのです。

なので、
メンタル・ケミカルの問題点が何なのか？
これを絞っていく、アプローチする際に
私はキネシオロジーの学問を用います。

しかしながら、
馴染みの無い施術家の先生からすると
なんとも受け付けにくいと思います。

でも、筋骨格系の理学検査では、
見分けられない問題点を見分ける際に
非常に便利なものです。

そこで、今回は
筋反射と神経系の関わりについて
解説していこうと思います。

なぜ、筋反射で脳のエラーを
見分けてメンタル・ケミカルの
問題点をみつけらるのか？

この筋反射と神経系との背景を
お話していきますね。

基本的にこのキネシオロジーの学問は
色んな考察がされています。

例えば、悪いところを触った時に、
筋力検査にて筋出力が強い筋肉が
抵抗に耐えられず落ちたとすると、
この筋をインディケーター筋といいます。

強い筋肉が落ちる。
悪いところを触った時に強い筋肉が落ちる。

こういった時に、
いわゆる体の中での電気の交換の
ONとかOFF。

神経系の促通とか抑制といったものが
上手くなされているのかされていないのか。

つまりは、
脳と筋を支配する末梢神経系に
フィードバックがきちんと起こっているのか。

これを筋反射にて、
検査をしているということです。

なので、電気的な信号の交換というか、
正しい神経系のON・OFFがされているか？

筋-神経を介して神経のエラーがある部位を
見つけているということを実際はやっているわけです。

これを否定的に見る方もいます。

ただ臨床的には、
1900年代から結果が出ているものでもあるので、
現在でも多くの臨床場面の中でも使われています。

もし、これを拝読いただいているあなたが、
筋骨格系の検査をおこなっていたとしても
その方の症状の要因が絞れない。
よくわからない...

なんてことがあるようであれば、
脳-神経系のエラーが生じていて、
正しく体が検査に反応しない。

こんなことも考えられるわけです。

私達セラピストは、
人体に刺激を加えますから、
人体を司る神経系のエラーにも
注目する必要があると感じます。

そのツールのひとつとして、
筋反射およびキネシオロジーの学問を
学ばれることもひとつでしょう。

今後も私のコンテンツでは、
こうした脳-神経系のエラーについてや
メンタル・フィジカルの問題について
お話していこうと思います。